

「ノナ移植の放流場所は？」

岩宇地区の漁業者にとってノナ（キタムラサキウニ）は、とっても大切です。そしてノナ資源を有効利用するための深浅移植放流は、秋季、盛んに行われています。そんな大切なノナの移植放流の適地について一緒に考えてみませんか？

放流場所の候補地は？

ノナの放流場所は何処が良いのでしょうか？岩宇地区の漁場では通常、極浅い場所にノナの餌となるホソメコンブ（コンブ）が生育し、深い場所にはノナがいて餌不足です。そこで、漁場を3区分（コンブ場、コンブ場より少し深み、餌無し海底）して、それぞれの場所で定点を設け、毎月1度、3年間に渡りノナと海藻の分布状況を潜水して調べました。また秋には、コンブ群落が形成される浅場にノナを放流してみました。

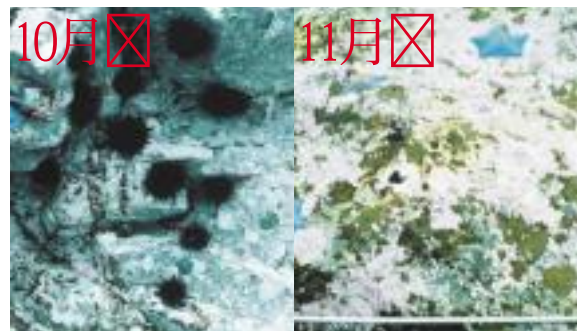


深場はノナが多く、餌不足。

☒

コンブ場より少し深みへ

浅い場所に放流したノナは、翌月までに居なくなりました。そこより、すこし深い場所にはノナが居続けました。また餌が無い深場は、当然ノナの移植放流に適しません。現状で放流に好ましい場所は、ノナが逸散することが無く、比較的餌が豊富な場所です。すなわち「春にコンブが見られる場所より少し深み」が放流に良いようです。



秋に放流したノナは、翌月までに消えてしまった。

☒

航空写真を利用して下さい

その他にも原子力環境センターでは、適切な移植放流場所を選定するのに役立つ情報として、岩宇地区の藻場の航空写真を長年にわたり撮影しています。当センターまで、お気軽にお問い合わせ下さい。



岩宇地区の漁場を撮影して、藻場の範囲を調べています。

☒